

生活者ネット こくぶんじ No.157 2022年7月

発行/国分寺・生活者ネットワーク 発行責任者/田中由紀
連絡先/〒185-0024 国分寺市泉町3-33-16 西国分寺ハイソ103
TEL:042-328-1864 FAX:042-328-1878
http://kokubunji.seikatsusha.me/ E-mail:kokubunji@seikatsusha.net



国分寺市議会議員
たかせ
高瀬かおる



国分寺市議会議員
こさか
小坂まさ代

国分寺ネット活動日誌

- 4月1日(金)議会報告会(オンライン)実施
- 4月6日(水)労働者協同組合法について市にヒヤリング
- 4月7日(木)労働者協同組合法について都にヒヤリング
- 4月15日(金)マサーヨがさく(市民懇談)
- 4月18日(月)放射能測定
- 4月19日(火)東京都公文書館視察/市民連合@国分寺のアピール活動参加
- 4月20日(水)朝遊説(国分寺駅南口)/市内の湧き水水量調査参加
- 4月21日(木)朝遊説(西国分寺駅南口)
- 4月22日(金)居住支援法人へのヒヤリング参加
- 4月28日(木)子育てカフェ「きかせてあなたのきもち」開催
- 5月7日(土)マサーヨがさく(市民懇談)
- 5月9日(月)特別支援教室について市にヒヤリング
- 5月10日(火)「インクルーシブな公園を見に行こう」実施
- 5月11日(水)市民参加でつくられた公園等の実地見学
- 5月13日(金)市への予算要望に対する回答読み合わせ
- 5月14日(土)国分寺市憲法記念行事参加
- 5月16日(月)放射能測定
- 5月19日(木)有機フッ素化合物地下水混入に関する学習会/市民連合@国分寺のアピール活動参加
- 5月22日(土)憲法講演会「自民党改憲案のねらい」参加/「新しい市役所の色を考えよう」成果報告会参加
- 5月24日(火)市の協働事業報告会傍聴
- 6月5日(日)全国川の一斉調査で野川水質調査に参加
- 6月13日(月)放射能測定
- 6月19日(日)市民連合@国分寺のアピール活動参加
- 6月26日(日)野川の水質調査参加/座談会「ようちえんどどこにする?」参加
- 6月28日(火)認知症SOSネットワーク模擬訓練参加
- 6月30日(木)「なんでも相談カフェ」参加

市民の声を集めて 誰もが遊べる公園づくりを

2024年までにインクルーシブ公園(障害の有無に関わらず誰もが遊べる公園)を設置する自治体に東京都の助成があることから、国分寺市では、武蔵国分寺公園に隣接する空き地に設置することとなりました。市は市民の意見を聞くワークショップを6月21日と6月25日に開催しましたが、建設予定地は国の史跡指定公園の一部であるため、史跡としての要素も必要だという説明がありました。参加した方の感想を紹介します。

建設予定地は、史跡公園である要素も含めないと文化庁から公園建設の許可がないということ、インクルーシブ公園としての要素もないと東京都が出す費用は使えないということ、さらに子育て支援の要素も取り入れたい、という意向もあるようでした。ワークショップでは、これらの要素を盛り込んだ公園にするには、どんなアイデアがあるかを出し合いました。水遊びができる井戸を設置して泥んこ遊びができるようにする、遊べる竪穴式住居を置く、子育てイベントを開催する拠点にする、一緒に遊ぶ常駐スタッフを置く、など活発に意見が出されました。

車いすで遊びに来たり、障害を持った子どもも遊びに来たい公園を作る過程こそが、障害って何だろう、インクルーシブって何だろう、と考えるきっかけになると期待していたので、見学したようなインクルーシブ公園として建設するわけではないことが分かり残念ではありましたが、しかし、大切な公園建設ですので、今後の動きをきちんと見ていきたいと思いました。(福間あき子)

生活者ネットワークは、インクルーシブ公園の先行事例である「府中の森公園にじいろひろば」の視察見学を5月10日に実施しました。「どの公園も誰もが使える公園になるといいな」との声があり、市内の公園のバリアチェックもしてみようということになりました。(田中由紀)



このレポートは、UDフォントを使用しています。

物価高騰に悲鳴

市民が安心して暮らせる生活保障を

長引くコロナ禍にウクライナへの軍事侵攻、円安も加わり、物価や光熱費、ガソリン代など、家計に直結する多くの生活必需品の高騰が止まりません。さらに、気候変動による高温化や水不足によるコメや野菜、畜産への影響が懸念されます。一方、年金支給額は0.4%引き下げられ、2年連続の減額となりました。また、中学校卒業までの子どもを養育している人を対象に支給される児童手当は、特例給付を廃止するなど、現政権は市民への負担を強いる一方です。

市としての 支援策を提案

物価上昇による影響について市に質問したところ、「懸念されるものの、6月当初時点では、市民や事業者からの相談件数は特に増えていないとのことでしたが、食費や光熱費は生活に欠かせないため、低所得者ほど負担が大きくなることは明らかです。実態を把握し、国の臨時交付金も活用しながら、生活困窮に至る前に速やかに支援することを求めました。

学校給食については、3月の予算特別委員会で、物価の高騰に応じて食料費の増額を求めましたが、今議会ですべての消費者物価指数相当分の

4.3%増額が決定しました。子どもたちの成長に大切な学校給食の質を低下させることなく継続できることとなり、ホッとしました。市立小・中学校に加え、市内保育所及び幼稚園に対しても給食の食料費を補助することになりました。

そして、市内の障害福祉サービス等事業所や介護保険サービス事業所に対しては、1つのサービス事業に対して10万円を定額給付することが決定しました。介護保険サービス事業者は、公定価格の介護報酬で運営しているため、送迎や入浴に必要なガソリン代・水光熱費などのコストがあがっても、料金を柔軟に引き上げることはできません。今回の素早い市

重要な食・エネルギーの 安全保障

世界的なパンデミックと物価高騰により、食料やエネルギーの自給は国の根幹となる最優先課題です。しかし、生産者の高齢化や農村の衰退もあり、農林水産省の試算では、2020年度の日本のカロリーベース食料自給率は約38%で、諸外国よりかなり低くなっています。食料は人間の生命の維持に

欠くことができないものであり、健康で充実した生活の基礎として重要なものです。将来にわたって全ての国民が食料を適正な価格で入手できるようにすることは、国の責務です。

また、電力不足として、酷暑の中、節電が呼びかけられました。政府は節電にポイントを付与するという外的な政策を打ち出しましたが、根本的な解決にはなりません。気候危機、気候災害が年々厳しくなっている現状に対して、早急に再生可能エネルギーの技術革新と活用財源を投入すべきです。

生活者ネットワークでは、これまでも食とエネルギーの地産地消を提案してきました。農業者が農業で自立できる制度構築やエネルギー政策の大転換は、喫緊の課題です。若者を交えた国民的な議論を通して、これからの日本のあり方について、根本から変えていく必要があります。

(高瀬かおる)



ひとこと提案から市へ予算要望

国分寺・生活者ネットワークでは、国分寺市と東京都に政策提案を行っています。みなさまからの「ひとこと提案」をもとに予算要望や施策をつくっていますので、いつでもお気軽にご意見や提案をお寄せください。郵送、FAXまたはメールで事務所までお送りください。

✉ kokubunji@seikatsusha.net

☎ 042-328-1878

ふぉと日記

高架下抜けると急にせまくなるこの歩道。ベビーカー、車いす、やっとまともに通れるようになるか? 西国分寺駅南口 武蔵野線高架下から府中街道までの歩道拡幅は2023年完成?

